



人生を、
読もう

主催
シビック
エンゲイ
ジメン
トセン
ター
ヒュー
マン
ライ
ブラ
リー
@青
学

HUMAN LIBRARY

2023年11月25日(土)開催 開館 12:40 閉館 16:00

当日会える本(予定)

『HSP』 『難民』 『元受刑者』 『ノンバイナリー』

ヒューマンライブラリーとは

『人を本に見立てて読者に貸し出す図書館』のことで、
様々なバックグラウンドを持った人が「本」となって自分の人生や
経験について語り、読者はそれを聴きながら、自由な対話を通じて
多様性についての理解を深めていく取り組みです。

詳細・申し込み
はこちら



「ヒューマンライブラリー@青学」 開催にあたって

ヒューマンライブラリーとは「人を『本』に見立てて、『読者』に貸し出す『図書館』」です。

2000年にデンマークで始まり、現在では世界 90か国以上で開催されています。

障がいや病気のある方やその支援者、セクシュアルマイノリティ、その他多様な属性を持つ人が「本」として人生や経験を語り、参加者が「読者」としてその語りを聴きながら自由な「対話」を通して多様性の理解を深めていく試みです。

普段はなかなか出会ってお話することのできない「本」のみなさんとの対話セッションをぜひ体験してください。

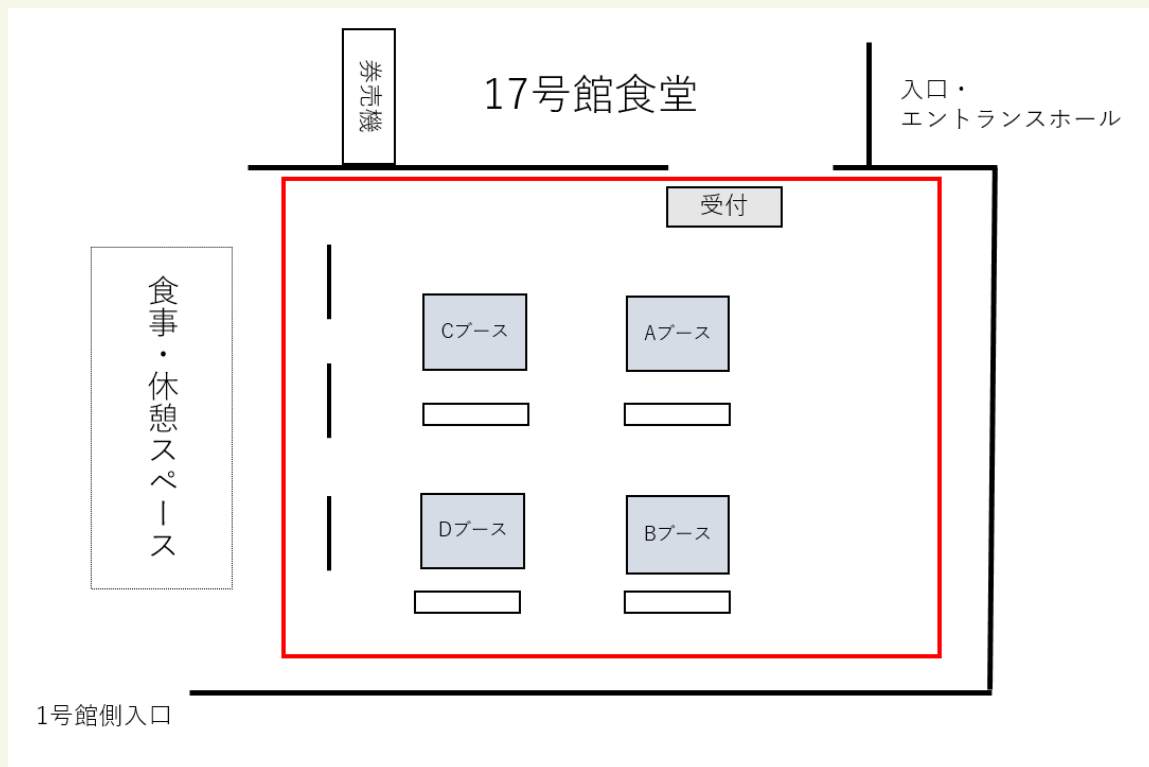
対話セッションでは「本」の方への質問だけでなく、感じたこと、ご自分の経験など、なんでも自由にお話してみてください。

「本」のことを知ろうと思って参加したのに、それ以上に自身の考え方や生き方を振り返る時間にもなってしまう...それがヒューマンライブラリーの「対話」の魅力です。

本の方々の多様な人生を読み、自分の人生を読み返すことで、皆様にとって新たな気づきや発見が生まれる場となることを願っています

会場図・ブックリスト

会場図



ブックリスト

ブース	氏名	カテゴリー
A	あるさん	HSP
B	葵さん	ノンバイナリー
C	湯浅静香さん	元受刑者
D	C.K.さん	難民

タイムテーブル

対話の進行と休憩時間

1. 対話時間は、質疑応答を含めて各セッション30分間です。
2. 「はじめ」、「終了5分前」、「終了」はスタッフがお知らせします。
3. 休憩時間は、「本」の方は「書庫」でお休みください。「読者」の方は、会場内でお休みください。会場は出入り自由です。
4. 最後の対話セッション後、15時40分からみんなで感想を共有し合う「座談会」を行います。ぜひご参加ください。
5. お帰りの際は、必ず「アンケート」を記入してスタッフにお渡しください。

タイムテーブル

	セッション1 13:00~13:30	セッション2 13:40~14:10	セッション3 14:20~14:50	セッション4 15:00~15:30	15:40~ 16:00
あるさん	Aブース	お休み	Aブース	Aブース	座談会
葵さん	Bブース	Bブース	Bブース	お休み	
湯浅静香 さん	Cブース	Cブース	お休み	Cブース	
C.Kさん	お休み	Dブース	Dブース	Dブース	

※各セッションごとに借りたい本の予約をしていただきます。

本の紹介

『HSPだからわかった弱さの大切さ』



あるさん

あらすじ

神経質や気にしすぎ、甘えという言葉で片付けられ、自分自身もそんな性格を肯定的に捉えることができなかつた幼少期。周りからの言葉がきっかけで摂食障害と鬱を経験。

カナダでの生活から自身がHSPであることに気づき、人との出会いから自分を大事にすることの大切さを知ったあるさん。

誰もが抱える「生きづらさ」を共感しあったり、きっかけを与えあったりしたい！とお話されていました。ぜひ、あるさんの人生を読んでみませんか？

司書からの一言

みなさんはHSPという言葉を知っていますか？ Highly Sensitive Personの略で繊細な気質を持って生まれた人のことを指します。自分がHSPであると知るまで、無価値観、自己否定感を強く感じていたあるさんが自身の過去、そして今を語ってくださいます。あるさんのお話を聞くことで、読者のみなさんにとっての人生のヒントを見つけられるかもしれません！ぜひあるさんの人生を読みにいらしてください！

『最近生まれたわけじゃない』



葵さん

あらすじ

「ノンバイナリー」を知っていますか？

初めて自ら使った一人称は、「僕」だったし、スカートよりもズボンの方が好き。男性になりたいわけじゃないけれど、女性として見なされるのは、違う。こうして自分の性に疑問を持つ中で、とある芸能人がカミングアウトしたというニュースから、「ノンバイナリー」という言葉と出逢います。

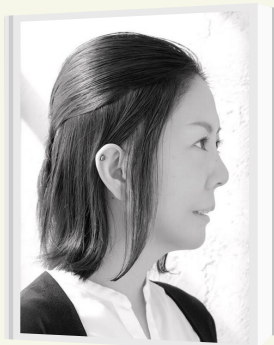
自分自身を「男でも女でもない」と思う性自認の1人である葵さんがどのように感じ、生きているか。ほんの一部をお話しします。

司書からの一言

司書としてお話してみて、葵さん自身が、自分や周囲の環境としっかり向き合ってきたからこそ、芯の通った考えを持ち、真摯に受け答えしてくださっているように感じました。読者の方との対話もチャレンジしてみたいとのことなので、ぜひ足を運んでみてください！皆さんにとって、新たな気づきを得るきっかけになればと思います。

本の紹介

『受刑者 依存症者の一言では語れない「私」の人生』



湯浅静香さん

あらすじ

元受刑者、依存症者の支援団体「碧の森」を運営する湯浅静香さん。

ご自身もかつては、受刑者かつ依存症者だったといいます。

— 犯罪は自制が効かなくなった人がやる事。

— 自分なら犯罪なんて犯さないだろう。

あなたはこの様に考えていませんか？

実は湯浅さんが犯罪に走ってしまった背景には、現代とは大きく異なる社会状況、複雑な家庭環境、そして小学校低学年の時に巻き込まれた“壮絶な事件”……など多くの事情が存在します。

当日、このような「背景事情」を知る事で得られる気づきがきっとあるはずです。

司書からの一言

みなさんの中で、元受刑者の方とお話しした事がある方はどれくらいいるのでしょうか？きっとそう多くはないはずです。当日は、幼少期から現在に至るまで、湯浅さんを取り巻いていた環境と、その中で的心情変化についてお話しいたします。話を聞いてどの様に考えるかは読者の自由です。そのためにも、まずは「知る」ところから始めてみませんか？

『困難を乗り越え歩みつづける』



C.K.さん

あらすじ

学生の時に民主化運動に関わったことで命の危険にさらされ、言葉も文化も分からないまま、日本へ逃れてきたC.K.さん。日本に逃れてからも、在留資格許可を得る方法が分からないまま過ぎていく時間。その中で妊娠が判明し、不安の中での出産を経験します。

在留資格申請の難しさ、困難を乗り越えてたどり着いた出産、日本での生活…あらすじでは書ききれないたくさんのことを経験してきたC.K.さんの人生のほんの一部をお話します。

司書からの一言

C.K.さんは打ち合わせで印象的だったのは「たくさん話がありすぎてどこを話せば良いか分からない」という言葉でした。祖国での経験や日本に逃れてくるまで、日本に来てからの経験、どこを切り取っても、想像を超えるようなエピソードが次々と出てきました。それを乗り越えてきたC.K.さんの人生は「難民」という言葉だけでは収まらない、もっと深いものだと感じました。その場限りのC.K.さんの人生のお話をみなさんも聞きにきてください！

ヒューマンライブラリーに参加される方 (本・読者)へ

本イベントは寛容で多様性のある社会を目指し、ふだん間接的にしかお話しすることのできない方々との出会いの機会を提供し、理解を深めてもらうことを目的に開催しております。

ヒューマンライブラリーのご利用には、以下の利用規約への同意が必要です。

1. 意図的に「本」「読者」を傷つけるような言動をしないでください。
2. 主催者並びに「本」及び同席者に無断で会場内の撮影や録音・録画をしないでください。
3. 対話中に知り得た「本」「読者」の個人情報等を許可なくSNSや、インターネット、印刷物等のメディアに公開しないでください。
4. 「本」の方が身体的・精神的苦痛を感じ、対話を継続することが困難になった場合には、途中で退席していただくことがあります。
5. その他、緊急事態が起こった際には本の貸し出しを中断する可能性があります。その場合は速やかにスタッフの指示に従ってください。

以上の規約に反する行為をしたとみなされた場合、利用を中止し退場していただく場合がございます。

利用同意書に署名された方のみ、「本」との対話をすることができます。署名していただく「同意書」は、受付で用意しています。

※なお、スタッフが記録のために写真撮影することがあります。
顔出しを希望されない方はお申し出ください。

※記入いただいた個人情報等は、本イベントのお知らせ以外に使用することは一切ございません。イベント終了後、責任をもって厳重に処理させていただきます。

ヒューマンライブラリー@青学

主催 青山学院大学シビックエンゲージメントセンター
運営 ヒューマンライブラリー@青学司書学生プロジェクト
協力 一般社団法人東京ヒューマンライブラリー協会